

北 恩 園



3rd BASE GATE



道の先へ

道の先にあるもの

北広島リハビリセンター 特養部 四恩園

施設長 神部 健史



新年、あけましておめでとうございます。

今年一年、皆様が幸福であることをご祈念申し上げます。

自分自身の人生を生きる～自立(律)した生き方

自分自身が決めたことの達成のために努力することが、自立(律)した生き方に通じると思う。

人は、様々な場面で自ら判断し、選択することを常に求められるが必ずしも自分の思い描いた結果になるとは限らない。

不確実な時代といわれる中で将来を悲観し、夢や希望を持つことに意味を見出せず、また世間一般が常識と思いつく意見に支配され依存し同調圧力として屈服していることはないだろうか。人は周囲の権威に依存するほうが安全であり孤独感も避けられる。

エーリッヒ・フロムは「人間は、自分の理性によって判断したり決心したりしなければならぬ時には孤独でなければならぬ」といっている。

マイノリティの人たちが声を挙げるのは差別や偏見に対して「自分の存在を示す」という「自己主張」であり権威に屈せず孤立(少数)を恐れないということだと思いつつ、マジョリティの意見に対し異論を唱えることは、とても

勇気がいることである。アルフレッド・アドラーは「人は孤立することはあっても孤独になることはない」といい、その意見に賛同する「仲間」の存在を強調する。自分自身の人生を生きるという自立(律)した生き方のために自己主張することは大切なことだと思いつつ、
本当のつながり

昨年のワールドバスケットボールクラシックの優勝、サッカー、ラグビー、バスケットボールのワールドカップで日本選手の活躍に感動と勇気をもたらした。そこには、プレーだけでなく選手が発する社会的メッセージの存在も大きい。

大谷翔平選手が今シーズンプレーするロスアンジェルス・ドジャース(当時はブルックス・ドジャース)で活躍した初の黒人プレーヤーのジャッキー・ロビンソン、一九〇〇年代中盤に活躍した。当時、黒人選手はメジャーリーグに存在せず激しい差別と闘いながらMVP、ワールドシリーズを制覇。その活躍は、公民権運動を推進する役割も果たしており、彼の背番号四十二は全球団の永久欠番である。

彼は「人間の人生は他の人生に少しでも影響を与えた時に初めて本当の意味を持つ」と語っている。激しい差別

にあいながらも黒人に対する差別の解消という社会課題の解決となったことが大きな感動を与えたのだと思う。そこには彼の行動に賛同する「仲間」の存在は大きかったと思う。

仲間とのつながりは、社会も時代も変えることができる。
常識を疑うということ

社会福祉はかつて劣等処遇の原則により処遇の結果が最下層の人よりもさらに低い(下の)生活状況であることが求められた。入所施設では、六人八人部屋は当たり前であり、個室という発想もなかった。さらに施設に入所すればおむつが当たり前であり「おむつ外し」に取り組んでいた当時の「非常識な実践」が今では「常識」になっている。

その時代の「常識」が明日も「常識」とは限らない。常識を疑ってみることが次世代を生きる人の「生きやすさ」を創造することであることを肝に銘じたい。

自分自身の人生を生きるために

人は、悩み、迷いながら自分で判断し、選択することを繰り返すことでより良い人生を送るための財産を得る。

誰もが幸福な人生を送りたいと思う。しかし、疾病や障がいがあることでその判断、選択が困難な人がいる。私たちはそんな人たちの人生の伴走者として寄り添いケアアドボカシー(ケアによる権利擁護)の担い手として共に道(人生)を歩く役割が求められている。誰もが幸福な人生を歩むことができる道を創ることが求められている。

この原稿を書いている時、能登半島地震が発生。被災者は路頭に迷い先の事を考える余裕もないだろう。けれど「止まない雨はない」のだから道の先を見ることができるようエールを送りたい。

竹山桜庭園の
動画はこちらから



東屋へ続く一本道



竹山桜庭園、今春オープン

桜祭り開催予定

北広島リハビリセンターと四恩園がある北広島市富ヶ岡は、広大な森と畑が広がるのどかな場所です。また竹山高原温泉があることから、この場所一帯を竹山と呼び、バスの停留所も富ヶ岡ではなく竹山となっています。

北広島リハビリセンター外来駐車場から道を挟んで林に足を運ぶと、大人数でも利用できる東屋が見えてきます。この東屋ではバーベキューをすることもでき、五月には満開の八重桜が心を和ませてくれます。せっかくの綺麗な桜をもっと多くの皆さんに身近で楽しんで頂くために、この度東屋周辺に遊歩道を作りました。遊歩道は全て職員たちの手作り、人が歩く部分には木のチップを敷いています。チップの上を歩くとやさしい

木の香りがして心も癒やされます。

雪が融けて春、遊歩道が見えて土がしっかりしてきましたら、お散歩に利用して頂くのも大歓迎です。たまにリスがお出迎えしてくれるかもしれません。また桜の時期になりましたら、この遊歩道を使って桜祭りを行いたいと考えています。沢山の方がここに訪れて頂く事をお待ち申し上げております。

【アクセスマップ】



木のチップの香りが心地良いです。



春には満開の桜を楽しめます。

うれしい・楽しい・ 美味しい

2023年、四恩園各事業所の
外出行事の風景

北広島にこんなに立派なのができたのねえ！ 〜エスコンフィールド北海道への外出行事

デイホームさとみ
サービス付き高齢者向け住宅しおん



開いた大きい屋根は圧巻です。

外観を見ていらっしやいました。今年の野球シーズンが終わってもなお多くの見物客がいて、修学旅行の学生達の姿もチラホラ見えました。丁度この日はエスコンフィールド名物の大きい屋根が開いており、球場内も燦々と日の光と秋の風が心地よく吹き込んでいました。スタンドに腰をかけて見下ろすと、青々とした芝が目に入り、「ここで野球するのかい！ すごい所だねー。」や「天井がすごい高いね！ この開いている所から雪入ってこないのかい？」とお話しながらしばらく見物。球場内にはビールやカツサンド、ドーナツなど沢山の魅力的なお店があり、「このビール美味しいの？ 飲ん

紅葉色づく快晴の青空の元、デイホームさとみのお客様五名が外出行事の一環でエスコンフィールド北海道の見学に行ってきました。車から降りたときには建物の大きさに「すごい大きい所だねえ！」と皆さん目を丸くして

でみたいわー！」や「どれも美味しそうに見える！ お昼ご飯食べたけどまだ食べたい！」と皆さんで談笑しました。

皆さん北広島に住んで長い方たちばかりで、「私たちが家を建てた頃は、駅前の交番が見えたのよ！ なーんも無かった。北広島にこんなに大きい建物ができるなんて思ってもみなかったわ！ すごいお金かけて建ったんだろうね。」と初めて来た場所を楽しんでおられました。デイホームさとみでは、お客様の「やりたい、行きたい、見たい、食べたい」を叶えられるようにこの先も催しを提供していきたいと考えております。

別日にはサ高住しおんのお客様がエスコンフィールド北海道を見学され、天井大屋根が開く貴重な所を見学する事ができました。



偉大な選手をバックに



球場の広さに驚き

ボールパークの外観が綺麗に見える！
 ↳北広島市役所内のイシヤカフェへ外出

デイホームかたる



ご当地キャラクターと並んでポーズ

九月末のまだまだ暖かさが残る天候の元、デイホームかたるの外出行事で北広島市役所五階のイシヤカフェを楽しんできました。カフェスペースには、ボールパークの外観が描かれた横断幕や大きなポスター、北広島ご当地キャラクター「まいピー」のピカピカなおブジェもお目見えし、皆さん思い思いに記念撮影をされました。そして何より展望テラスからのボールパークの眺めは最高で、こ



テラスからはボールパークの大屋根が見えます

か体験できない眺めを楽しまれています。参加されたお客様は「前にも何回か来た事あるんだけど、こんなに眺めが良い所だとは思わなかったわ！ 実際にはボールパークへ行くより楽しめた！ デイサービスの仲間たちと来るのも楽しいね。」とお話されながら、後半はアイスクリームやコーヒードで談笑し大満喫の外出行事となりました。

ほっぺたが落ちそうなくらい美味しい！
 ↳回転寿司銀次郎へ外食ツアー

特別養護老人ホーム四恩園

特別養護老人ホーム

ムでは、回転寿司銀次郎へ食事外出ツアーを行いました。銀治郎のお寿司はネタも大きく鮮度も抜群！ 毎日多くのお客様で賑わっている人気店です。参加された特別養護老人ホームのお客様は思いにお寿司を頼まれ、大きなネタのお寿司が出てくると表情がほっこり！ 早速口へ運び満面の笑みがこぼれていました。参加されたお客様は「ほっぺたが落ちそうなくらい美味しいよ！ 贅沢だねえ。」と皆さん大満足な様子で舌鼓を打っていらっしゃいました。



美味しいお寿司・デザートに舌鼓

みんなで一緒に歌う喜びや楽しみを!

ラディッシュバンド

(さんちゃんと寄り添いいつか開花バンド)

～結成から初公演までの軌跡～

ラディッシュバンドの
動画はこちらから



演奏後、全員でバンザイ



熱唱! 素晴らしい歌声です。



バンドメンバーで息を合わせます。

今年、「四恩園のサービスを利用しているお客様や地域の方々に、職員の演奏で歌や音楽を喜んでもらおう!」というかねてからの構想で、職員によるバンドが結成されました。メンバーは、三瓶徹(ベース・司会・社会福祉法人北海長正会理事長)、新沼右文(ギター・北広島居宅介護支援事業所四恩園)、長

内隆二郎(ボーカル・北広島リハビリセンター)、伊東賢志朗(キーボード・北広島居宅介護支援事業所四恩園)、泉正人(ドラム・北広島市みなみ高齢者支援センター)、です。そして松沢恵さん(北広島居宅介護支援事業所四恩園)が活動をサポートしてくれています。バンド名は「ラディッシュバンド」。ラディッ

シュの意味は「だいこん」。そうです、だいこんマンボのだいこんです。

初練習は二〇二三年五月でした。楽器を弾く事から数年(数十年?)離れているメンバーもいたので、それぞれ自主練習を重ねながら勘を取り戻していきましたが、最初はなかなか息が合わず演奏はポロポロ……、音響機材の使用方法もわからずハウリングの嵐……。前途多難の船出でした。そんな中にも演奏の楽しさがあり、月二回の練習を経て次第に上達した(?)と思います。曲は誰もが口ずさめる曲、「いつでも夢を」「上を向いて歩こう」「青い山脈」などを演奏しています。

そんな四カ月間の猛練習があつて、二〇二三年九月二日よいよデビューの日を迎えました。ふれてフェスティバルでの初公演です。開演前のメンバーは、顔は青ざめ、手はプルプルと震え、ソワソワと落ち着きなく歩き回る極限の緊張……。しかし、演奏が始まると観客の皆さんの温かい拍手・ご声援に支えられ五曲を何とか演奏しきりました。その日聴いてくださった皆さまには本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

この日を皮切りに、デイホームかたるやデイサービスセンター四恩園での敬老会や忘年会、ともに地域の学芸会、北広島リハビリセンターの新年会など様々な場で披露させて頂いています。これからも皆さんと一緒に歌う喜び、楽しさを共有できるよう私たちも楽しみながら演奏していきます。

(バンドマスター 新沼 右文)

私の羅針盤

～あの時指した光の先へ～

2023年入職 みなみ高齢者支援センター 千葉 ゆか

ボランティア経験が社会福祉士を目指すきっかけに

自ら進んで行動できなかった学生時代の私は、高校生の半ばまで進路について考えてもぼんやりしていました。ある日先生から「なぜかあなたへ話してしまうような温かみがある。福祉の道に向いているかもしれないな。」というお言葉を受け福祉系の大学へ道を進めました。自分自身が変わったと思えたのは、大学でのボランティア経験です。初めて参加した地域のサロンで高齢者の方々とお話をした時に、皆さん言葉や笑顔の温もりに感銘を受けました。それ以来高齢者の方々がもっと笑顔に、寂しさを抱えていても嬉しさに変わる一時を目指し、自ら進んで仲間へ呼びかけ色々な企画をしました。そこで高齢者お一人お一人からもっと深く話を聞いて、寂しさも嬉しさも共感していきたいと思ひ、社会福祉士を目指しました。



実習を通じて、四恩園への思い

大学三年生の頃社会福祉士実習で、みなみ高齢者支援センターをはじめ四恩園の各事業所でお世話になりました。社会福祉法人として地域づくりへ積極的に取り組んでいることや、認知症や障害の有無に関わらず子供から大人までオープンに関わるのでできる場がある事を学び、共生社会を形に表している四恩園を魅力に感じました。実習中はコロナ禍で地域へ積極的に出て行く事がなかなか出来ない状況でしたが、現在は職員の一員として地域と関わる機会を沢山経験させてもらっています。

みなみ高齢者支援センターの職員として

入職してからは、毎日不安の連続でした。社会人としても、このお仕事としても初めてな事ばかりで、引き継いだお客様には、「こんな知識も経験もない若者でごめんなさい...。」と毎回思っていましたし、歳を聞かれたり前職を聞かれると「ドキッ」としていました。しかしこんな私が一人で訪問すると「慣れたかい?」「少し顔つき変わったね!頼もしくなってきたんじゃない?」と気にかけて下さるお客様も多く、その言葉が日々を頑張っていく糧となっています。

これから目指したいこと

困りごとを相談する方の中には、家庭の中で高齢者の事のみならず、障がい者の事や子どもの事など一つの問題ではなく複数の問題を抱えている方もいらっしゃいます。現在はそれぞれ相談窓口が異なるので、一つの相談窓口で全て相談出来る体制があれば良いと思っています。その一歩としてまずは担当のお客様や地域の方一人一人と向き合い、いずれは「この人ならなんでも知っているからまず聞いてみよう。」と言われるようになるため、関わり方や多様な対応ができる知識と人脈を培っていききたいと思っています。

蛍雪の功

～働きながら新たな資格を取得し、
より一層お客様の役に立てるように～



2023年度 社会福祉士国家試験 合格者の喜びの声

高齢者地域支援課 二浦 和紀

私は三年前の夏に、みなみ高齢者支援センターに配属され、新米ケアマネジャーとして働きながら、センターに寄せられる相談の対応や、様々な困難事例の対応を先輩職員から学びながら、経験を積ませて頂きました。そのような中で、お客様にとって最善の支援を提供するためには、社会福祉の広い知識と、より高度な相談援助技術が必要であると感じ、社会福祉士の資格を取得すると決意しました。

一年前の四月から、通信制の養成校での勉強が始まり、レポート提出やスクーリング、実習など週末や早朝を中心に何とかクリアできました。国家試験までの半年間も土曜や早朝スキマ時間を使って試験対策を続け無事に合格できました。

四月からは、早速、社会福祉士としての職務を与えられ、新たなスタートラインに立つたところです。年々相談件数も増加の一途で、高齢・障がい両面の問題などの複合課題も増えてきています。まだまだ未熟ではありますが、少しでも地域の社会福祉の増進に貢献できるよう頑張っていきたいと思っています。

高齢者地域支援課 泉 正人

二十二年前にヘルパー二級を取得して病院で介護員として働いたのが初めての業務でした。それから経験を積み、介護福祉士、介護支援専門員を取得し介護職から相談援助職として経験を重ねました。相談援助の実践を振り返りする中で、相談援助職として専門性に欠けていることが多々あり、ソーシャルワークを学ぶ必要があると実感したため社会福祉士に必要な科目を学び、知識や相談援助技術を習得し実践に繋げたく、社会福祉士を取得しようと思いました。

通信で養成校に入学しスクーリングやレポートの提出、試験勉強は、仕事と子育ての両立の中ではありましたが、沢山の方々に助けをもらい、支えられ乗り越えることがで

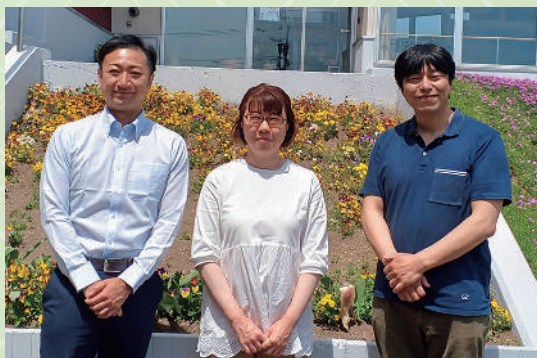
きました。

資格取得がゴールではなく今後も、日々経験を積みながら自己研鑽し専門性を高めて、お客様の役に立てるよう誠実に務めてまいります。

居宅介護支援課 松沢 恵

私は、十五年前に訪問ヘルパーとして、介護の仕事を始め、その後、介護福祉士、ケアマネの資格を得て、ケアマネ業務についていました。ケアマネと言えば、高齢の方々の支援という印象ですが、実際には障害のある方、財産管理が必要なること、より質の高い支援ができると感じていました。

五十歳を過ぎてからの通信教育受講や試験勉強に当初は不安がありました。受験前の最後の一月は、仕事と食事、睡眠以外は全て勉強に費やして、一発合格することができました。新しいことにチャレンジするのに年齢は関係ないと気づかされました。これからは、学んだ知識を最大限に生かして、皆様のお役に立てるよう頑張っていきます。



四恩園 主な国家試験等取得者

(2023年3月31日現在)

- ・社会福祉士…25名
- ・介護福祉士…91名
- ・介護支援専門員…40名
- ・看護師・准看護師・保健師…29名
- ・ヘルパー1・2級・初任者研修…41名

この広報誌のアンケートにご協力をお願いします。こちらから↓



● 発行者 社会福祉法人 北海長正会

● 住所 〒061-1153

北広島市富ヶ岡509-31

● TEL (011)373-6655

● FAX (011)373-6611

● ホームページ <http://www.shionen.or.jp>

● E-mail tokuyo@shionen.or.jp

● 編集発行 広報委員会

● 編集発行責任者 理事長 三瓶 徹

● 発行日 2024年1月

